

- 管内 釧路管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（防災フォーラム）
- 教育課程 教科（地歴公民科等） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 過去に地域で発生した災害を調査し、現在の課題を考察する取組
- 防災教育に取り組む研究団体と連携した防災学習の推進
- 青少年層の防災活動への参画を促進する活動の実践

取組の実際

ねらい

- 防災教育活動を通して、防災に対する意識の高揚を目指す。
- 浜中町民としての防災意識を認識するとともに、社会教育的な立場から防災活動を啓発できる能力を育む。

内容

(1)『霧多布高校防災学習の日』全校集会

◆生徒会主催の全校集会

「防災教育フォーラム in はまなか」開始前に生徒会長が防災学習の趣旨や目的を全校生徒に説明した。過去に浜中町で発生した災害について、当時の児童生徒が壮絶な被害状況を記録した文集を朗読し、同時に当時の写真をスライド上映することで、生徒自身が災害を身近に感じる活動を集会に取り入れた。
【スライド上映と文集の朗読の様子】



(2)研究団体による『防災教育フォーラムinはまなか』への参加

◆フォーラム第1部

『学校教育における防災教育実践』

高校生や大学生による防災学習への取組状況の実践報告を行った。主催する研究者たちから多くの質問や意見をいただきながら、これからの活動の方向性を探っていくことができた。



【津波発生装置を解説する様子】

◆フォーラム第2部

『防災教育と若者の参画』

建築士が講師を務め、フォーラムに参加した地域住民とともに避難所運営ゲーム（HUG）を実践した。高校生として被災した場面でどのような役割を果たすべきかを考えると同時に、感想や意見を述べ合うことで、新たな防災への課題を共有することができた。



【地域住民とHUGに取り組み、成果を発表する様子】

成果と課題

- 浜中町で過去に起きた津波災害を教材とすることで、身近な問題として生徒の防災意識を一層高めることができた。
- 形骸化した避難訓練のような防災学習とは異なり、外部の研究機関等と連携することで、教員も新たな角度から防災教育を見直すことができた。
- 地域住民への積極的な参加を促したが、協力を得るのが難しかった。